



逢瀬の風

郡山市立逢瀬中学校だより No. 15
〒963-0213
郡山市逢瀬町多田野長倉山 1-1
発行日：令和 6年 8月29日
責任者：校長 星野 亜希

第2学期始業式

26日(月)に第2学期始業式を行いました。今学期もどうぞよろしくお願いします。始業式では校長より次のような話をしました。

～ 校長式辞より一部抜粋 ～

さて、この夏休みには4年に1度のオリンピックが開催され、テレビ等でも大きく報道されました。眠い目をこすりながらテレビに釘付けになった生徒もいたのではないのでしょうか。また、夏の風物詩となっている夏の甲子園。甲子園常連校が次々に勝負に敗れていく中、京都国際高校が頂点に立ちました。オリンピック、夏の甲子園、規模は大きく違いますが、見る人の心を打ち、多くの感動がある・・・という点では同じであるように思います。なぜなのでしょう。目標に向かってなりふり構わず、一生懸命に取り組む姿勢があるからだと思います。スケートボード男子ストリートの堀米雄斗選手は、最後のトリックで全選手の最高点をたたき出し、大逆転で金メダル獲得となりました。「1%の可能性を信じて、最後に実った」と感動を表現する一方で「地獄のような3年間だった。」とインタビューに答えています。東京五輪に続き、連覇した一流選手でもこんなふうに思うのだな・・・と私の中にこの言葉は印象強く残っています。

皆さんも実感しているように、努力を継続するということは簡単なことではなく、加えて、勝負とはなんとも厳しいものです。言い訳はできない、逃げられない、負けてしまえば今までずっと練習してきたことが、その試合で終わりです。私たちは、自分にとって困難な状況に陥ったとき、何か言い訳を考えたり、知らないふりをしたり、「今この目の前のことから逃げたい」と思うことがあるものです。しかしながら、逃げても解決することはほとんどなく、自分自身の成長も望めません。どんな困難にもしっかりと向き合う、何かしらの打開策を考える、もちろん、時には誰かに頼るのもよいでしょう、とにかく「逃げない」「あきらめない」。ほんの少しの勇気、あと一步の勇気で乗り越えられることも多いはずです。人間、そんなたくましさを持っていたいと誰もが強く感じているからこそ、それらをオリンピック選手や高校球児に重ね、選手の活躍に感動を覚えるのかもしれませんが。本校の目指す生徒像には「心身を鍛え、健康でたくましい生徒」があります。皆さんにも、目標にむかって全力で努力できるたくましい生徒であってほしいとオリンピックや高校野球を見ながら感じたところです。

今日から2学期がスタートします。2学期のテーマは「感動」です。2学期は、1学期と3学期の間。サンドウィッチで言えば、卵やチーズ、ハムなどおいしさを左右する具の部分となる期間です。令和6年度の1年間を終えたとき、1年間を振り返ってあなたがどんな1年間だったと感じるか、この2学期が左右する学期となります。新人戦、そしてあすなろ祭と大きな行事が続きます。一つ一つの行事にただ流されて過ごすのではなく、自分自身をしっかりと見つめ、自分自身をコントロールしながら大きく成長する2学期となることを願い挨拶いたします。

多くのことを心で感じ、「感動」の多い二学期としましょう。

